

令和5年度 事業報告書

特定非営利活動法人まみいはんど

1. 事業期間

令和5年9月1日～令和6年8月31日

2. 事業の成果

令和5年度は前年同様、介護保険法による介護事業（通所介護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護）、児童福祉法における障害児通所支援事業（放課後等デイサービス、日中一時支援、短期入所）を継続して行いました。

昨年度、当法人のデイサービスふさと、小規模多機能ふさと楓の家の2事業所において新型コロナウイルスのクラスター（集団感染）が発生したことを踏まえ、感染や事故がない安全な事業所を目指しました。その中で令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行となりましたが、引き続き手洗いや消毒、マスク着用などで重症化リスクの高い高齢者の方への感染対策は継続しつつ、「新たな健康習慣」に即して通常通りの業務、生活を送るよう努めました。

居宅介護支援のふさとケアセンターは、令和6年2月から職員を1名増員し、令和6年4月からは特定事業所加算Ⅲの算定事業所として、より質の高いケアマネジメントで、各関係機関との連携を取りながら利用者様・ご家族様の様々なニーズに寄り添った支援を行いました。

地域密着型通所介護（デイサービスふるさと）は、令和５年１１月より１名の技能実習生をミャンマーから迎え入れて、これまで同様に「あたたかいふるさと」のような事業所を目指してサービスを提供しました。季節にちなんだ旬の食材を使用した手作りの昼食サービスも継続しており、家庭的な支援は利用者の方にも評価を頂いております。

通常規模型通所介護のリハビリデイふるさととは、令和５年１１月から１名、令和６年２月から１名の合計２名の技能実習生をミャンマーから迎え入れました。高齢者に必要な１日１０分程度の運動が継続して出来るように理学療法士・看護師が中心となり、楽しく効果的な運動を支援しています。また、足湯では利用者同士の輪ができ、皆様楽しみに通所されています。コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、外出リハビリも再開することができました。

小規模多機能型居宅介護ふるさと楓の家は、令和６年２月から２名の技能実習生をミャンマーから迎え入れました。訪問・通所・宿泊を組み合わせたサービスで、利用者様の生活全般を支援し、住み慣れた地域での生活を継続するお手伝いことができました。また、医療機関とも連携を取り、退院後の一定期間の宿泊サービスの受け入れ等、ご家族・ご本人の不安を軽減し、ご自宅に帰る為の生活リハビリや準備の支援をすることができました。

障害児通所支援事業の放課後デイふるさとめぶきの家では、外部研修、定例・臨時会議等で支援の見直しや、知識技術の向上に取り組みました。外出の機会も徐々に増やすことができ、三重県総合博物館 Miemu にお出かけをしたり、駄菓子屋イベントを開催したりと活発に活動しました。また、子供たちが自然に触れ、様々な経験ができる場「めぶき農園」も４年目となり、障害児童の苦手を克服し、得意や好きを見つける素晴らしい療育の場となりました。

個別対応の放課後等デイサービスである、こども学習支援センターあいむ塾は、家庭・学校とも連携を取りながら、個々の障害特性に合わせての学習支援を行いました。学習支援だけでなく、学習の場面を通して支援者や他児

童とのコミュニケーションや社会性のスキルも獲得できるよう支援をしています。

短期入所事業所のショートステイほしぞらの家では、ご家族のレスパイト目的での利用の他、障害児童の修学旅行の練習や、洗濯・掃除等の日常生活を学ぶ場となっています。また、夜店へのお出かけや、外食体験、花火鑑賞など短期入所ならではの行事を計画し、楽しみに利用されています。

令和 5 年度は、ミャンマーからの技能実習生 5 名を受け入れ、各事業所において活躍してもらいました。慣れない土地での仕事・生活ですが、介護従事者としての育成を法人全体でサポートしています。実習生の受け入れ体制の整備とともに、度重なる物価上昇により、経営は若干の赤字となりましたが、日々の無駄な出費を抑えて、従業員の待遇は維持しつつ、質の高いサービスを提供することで、地域に貢献できるよう努力致します。

3. 事業実施状況

(事業名) 居宅介護サービス事業、障害福祉サービス事業、地域生活支援事業

(内 容) 在宅の要支援・要介護高齢者・障がい者、障害児童へのサービス

(実施場所) 伊勢市宇治浦田 3 丁目 5 9 - 2 5

伊勢市楠部町 5 1 0 - 9 3

伊勢市勢田町 9 1 1 - 2 2